

押野の虫送り

押野の近年の虫送りは、19時頃に高皇産靈神社たかみむすびを出発し、太鼓を担いで叩く青年団の後にたいまつを持って歩く子供が続きます。道中では一定のリズムで太鼓を叩き、辻（交差点）等で太鼓の演舞が行われます。20時頃に押野中央公園に設けられた「虫送」の火縄のアーチをくぐり、大たいまつの前で盛大な太鼓の乱打が繰り広げられます。

押野は虫送りのバチが2種類あり、オオバイと呼ばれる径約6cm、長さ1mのものと、コバイとよばれる、径約10cm、長さ40~50cmのものがあります。これは他の地区に比べて太く特徴的です。また、押野は御経塚や横江よこえ（白山市）とお互いの虫送りの日に太鼓を担いで応援に行く「イイ」という文化が残っています。

押野に残る伝説では、昔、前田の殿様が高尾の山に鷹狩りに出かけ、夕暮れごろに平野を見下ろすと村々の虫送りのたいまつ灯火が見え、その中でもひととき大きなたいまつを掲げる村があったので「どこの村か？」と家臣に尋ねたところ押野村のたいまつであったといえます。



押野の虫送り
「イイ」として御経塚が応援に来ています。



以前は、長さ約3m、直径約1mの「ムカイダイマツ」が行列の前後を練り歩きました。写真は昭和40年代。